

「人権侵害目をそらしてきたことを、実感しました」
医療福祉経営専攻 修士課程 1年 保育士 小嶋奈都子

池原先生

精神科の強制入院についての問題点は漠然と知っていましたが、今回ご講義を受けて日本の精神医療の問題点がよく理解できました。

先生の御活動を学ぶことで問題の根本が人権侵害であると明確になり、私たちは、その憲法に反する事実に向き合わなくてはいけないのに、目をそらしてきたと実感しました。

先日北海道にある「ベテルの家」についての本を読みました。
まさに雷に打たれたような感覚でした。ベテルの家では精神障害者が安心して社会生活を営みながら暮らし、精神障害を前向きに捉え、精神障害者がお互いに分かち合い助け合い共同生活をしていました。
こんなに田舎で人手も不十分な地域ですら精神障害者が人間らしく暮らしているのに都会では何をやっているのかと感じました。

そして今日、先生のご講義を経て精神障害者に必要なことは、強制入院や投薬などのいわゆる医療に全依存ではなく、地域の包括的な取り組みの中で共に暮らすこと、そしてその権利があると確信しました。

ただ、今日まで精神障害者が入院を強いられていたことで、私たちは精神障害者と接する機会が乏しくどのように向き合っていけば良いのかその方法がわかりません。

精神障害者の人権の問題は、根本では人間の尊厳が守られていない社会、人権が軽んじられている社会だと考えます。

きちんと目を向け、改善を図ることで誰でもが暮らしやすい成熟した社会にしていきたいと思いました。

本日までご講義いただきありがとうございました。